

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は、国公立大学の受験を視野にいれて受験勉強をしていたため、併願推薦にとっても魅力を感じました。併願推薦は、実際の受験を経験することができ、また合格をすることができればこれからの受験に安心感と勢いをつけることができると思い、同志社女子大学への受験を決めました。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

まだ受験する大学が決まっておらず、また推薦入試を受けるかどうかも決まっていなかったため、ただ成績の向上に重視して勉強を進めていました。全教科万遍なく勉強することに心がけていましたが、ほとんどの大学で必要となる英語は、毎日かかさず勉強するようにしていました。

〔夏休み〕

着々と自分の受験する大学が決まりつつあり、自分の受験で特に必要となる教科も定まったことで、受験本番までの計画を立てることができました。夏休みは学校の授業がないため、自分が今やるべき勉強はこれでいいのかという不安や焦りを感じることもありましたが、受験本番までの計画を立てることで、自分に足りていない点や夏休みの間に終わらせておきたい点などを見つけることができ、自然と勉強に集中することができました。

〔2学期～入試直前〕

私は2学期に入ってから、同志社女子大学の過去問を解き始めました。過去問は、推薦入試の問題傾向を知ることができ、解いて見直すだけでも自信につながります。またこの頃から間違えた問題を分かりやすくノートにまとめるということを始めました。まとめることで、ただ問題を解いて見直すことよりも理解力を高めることができたと思います。

入試本番が直前になると、緊張などで勉強にあまり手がかつかなくなるので、今までまとめたノートを見返したり、よく使っていた問題集を見たりして気持ちを落ち着かせていました。また、受験当日に試験以外の不安を残したくなかったので、準備は万全にして受験に挑みました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

受験期は、高校生活最後の年でもあるため、受験勉強だけでなく、高校の行事やクラブ活動にも力を入れてきました。しかし、どんなに力を入れた行事や活動を行っていたとしても、全く勉強をしない日は作らないように心がけることが大切だと思います。ただ、受験期に徹夜は絶対にしない方がいいです。また、スマートフォンは勉強道具として使用することが多くありました。スマートフォンは、受験生活において使い方によっては強い味方になってくれます。どうしても勉強のやる気が出なかったり、成績が上がらず思い悩むときもありました。そんなときは、その日1日は全力で遊ぶことにしていました。1度思いっきりスッキリすることで、次の日からの勉強に新鮮さがわきます。受験勉強を続けていくためには、少々の息抜きも必要です。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験生活では、やっぱり辛いことがたくさんありました。ですが、その中でも嬉しかったことや楽しかったこともありました。受験勉強は、結果はどうあれ挑むことに価値があると思います。受験勉強を通して経験したことは絶対無駄にはなりません。自分の努力次第では、受験は将来の幅を広げる大きなチャンスです。諦めずに、最後まで頑張ってください！